

石川 弘道 学長



【いしかわ ひろみち】

1947年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科博士課程修了。研究3部作は『情報活用空間の探求』『経営情報の共有と活用』『経営情報の活用モデル』。趣味の分野で『落語と情報学』を著している。

情報化時代における経営

担当科目と研究テーマ

担当科目は「演習」の他に、「経営情報論」「経営情報システム論」「マーケティング・リサーチ」でした。学長となり授業担当はありませんので、新入生の皆さんと授業で会うことはありません。どのようなゼミであったかは、「卒業生からの一言」で想像して下さい。「切磋琢磨」と「思いやり」を合言葉に、30年余ゼミを行って来ました。

私の担当は「経営情報論」と「経営情報システム論」がメイン科目であり、「マーケティング・リサーチ」がサブ科目でした。しかし、学部・大学院からの研究の流れは逆です。マーケティング・リサーチを専門とする研究室で、予測モデルを研究対象とし、予測情報の精度向上を統計的に追究することから研究がスタートしました。

私たちは何をなすべきかを考える時、将来の状況と選択可能な行動の組合せを想定し、結果がどうなるかを予測し、それを参考に計画を立てます。ですから、予測はとても大事なのです。

大学院生の後半からは、予測情報に限らず、広く経営情報を研究対象とし、本学に着任してからは「経営情報の共有と活用」という視点から研究・教育を進めてきました。時代はパソコン、インターネットの普及という情報化の流れの只中でした。

情報化時代において経営を考える時、情報を独り占めし、一人勝ちすることは困難です。協力関係にある企業や組織間、また企業と顧客間、消費者間など多くの関係者の間で情報を共有し、その情報を活用することが求められています。このことを皆さんと共に考えながら、授業を進めて来ました。大学での授業も教員と学生一人ひとりの間での問題意識の共有と情報・知識の共有が大事です。そのベースはコミュニケーションであると考えています。皆さん、真の学問探究をしましょう。

ゼミ生のひとこと



「想い出の石川ゼミ」

ゼミでは3～5人でのグループ活動も多く、本格的なプレゼンテーションも多くなりました。一方で、自主的な活動が求められました。今は、コミュニケーションとチームワークが重要で、自分で考え動く時代。仕事のやり方も時代を先取っていたと思います。先生は社会に出た私たちの姿も見えていたのでしょうか。

N.S.ゼミ17期生 大学准教授